

平成25年1月17日

世田谷区立八幡中学校
校長 阿部 陽 一 様

世田谷区立八幡中学校
学校関係者評価委員会
委員長 中 嶋 啓 子

平成24年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

1. 調査結果の概要

昨年度より保護者・地域の回収率は、それぞれ63.1%、58.1%と昨年度よりやや減少した。

全体的に見て、各設問の回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」)と『否定的評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」)及び『わからない』(E)に分けてその割合を比較してみると、おおむね『肯定的評価』が多い。一昨年度、昨年度と『肯定的評価』の数値が高くなってきた項目が多かったが、本年度もまた、さらに『肯定的評価』が伸びた項目が多く見られた。全体的に『肯定的評価』が高い結果である。

昨年度の学校関係者評価の結果をうけ、今年度の改善・努力をした項目について考察し、今年度どのように評価されているか、結果と共に分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『分からない(E)』の比率の高かった項目については、内容をよく吟味し、さらに改善・努力するとよい。

2. 調査の結果からみる八幡中学校の活動について

(1) 保護者の評価

・全42項目(共通項目)中

『肯定的評価(A「とても思う」・B「そう思う」)』

5割を超えなかったもの 0項目
5割を超えているもの 4項目
6割を超えているもの 4項目
7割を超えているもの 18項目
8割を超えているもの 12項目
9割を超えているもの 4項目

※参考 昨年度(H23年評価) 40項目

5割を超えなかったもの 2項目
5割を超えているもの 4項目
6割を超えているもの 6項目
7割を超えているもの 15項目
8割を超えているもの 9項目
9割を超えているもの 4項目

注) 質問項目数は2増、内容は4項目若干変更

- ・昨年度に比べて『肯定的評価(A「とても思う」・B「そう思う」)』が増加した項目は23項目であった。
減少した項目は4項目であった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価(C「そう思わない」・D「思わない」)』が増加した項目は14項目であった。
減少した項目は7項目であった。
- ・他の項目は、ほぼ横ばい。(増減が2ポイント以下のもの)

<Ⅰ 重点項目への取組>

※以下、『肯定的評価 (A「とても思う」・B「そう思う」)』⇒『肯定的評価』と略記

『否定的評価 (C「そう思わない」・D「思わない」)』⇒『否定的評価』と略記

「地域の期待に応え、地域とともに子どもを育てる」

- ・学校独自項目「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子どもを育てている」では肯定的評価が86%に3ポイント減、否定的評価は5%と3ポイント増であり、3年連続80%を超えた。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【保護者・地域連携】

- ・9-(1)「地域の人材や施設を教育活動に活かしている。」の項目で肯定的評価は70%と横ばいであった。
- ・9-(2)「地域の活動や行事によく協力している」の項目では、肯定的評価が92%とやや増であった。
- 独自項目で非常に高い評価を受けている。地域と学校との連携・協力関係は継続してよくできていると考えられる。

【学校協議会】

- ・9-(3)「学校協議会や合同学校協議会の活動が活発である」の項目は、74%が肯定的評価をしている(昨年度から13ポイント増加)。大幅に数値が伸びた。
- 昨年度の評価で提案したが、八幡中学校の学校協議会や合同学校協議会の活動の内容の具体的な特色が、他の学校と異なることについて、学校としてのPRについて、本年度は「八幡中学校の主な取り組み」のお知らせがあり、数値が伸びたと考えられる。今後も継続してPR活動に努めてもらいたい。

【広報活動・情報提供】

- ・8-(1)「学校からの通信に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている」、8-(2)「本校は、保護者に対していかに説明や対応をしている」、8-(3)「学校公開や保護者会を通して学校の様子がよくわかる」は、いずれも肯定的評価が84%以上であった(「知りたい情報」は92%と高かった)。肯定的評価が例年高い。
- ・8-(4)「本校のホームページは充実している」では肯定的評価が、58%と6ポイント上がった。しかし、まだ数値としては低く、更新の頻度が少ないように感じられていると考えられる。
- 教員の自己評価では、教育活動の公開については肯定的評価が100%、情報発信については83%が肯定的評価であった。
- 保護者が知りたい情報が何かを知る努力をしてきている効果もみられるが、今後も引き続ききめ細かな情報発信を継続していただきたい。部活動の様子等のUPの改善意見もあった。
- 「ていねいな対応」については引き続き高評価であるが、一部そうではない教職員についての意見もある。
- 保護者はホームページで確認したい人もいる。保護者が見たい情報を回数や頻度を多くUPするとよい。「わからない」という評価を改善していくための工夫と、特に行事後のUPを迅速にしていくとよい。

<Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育>

【学習指導】

- ・1-(1)「本校では、子どもにとって分かりやすい授業をしている」1-(2)「本校は授業を通して、子どもたちに学力がついている」1-(3)「通知表で評価されたことは納得できる」の肯定的評価はいずれも70%を超えた。「わかりやすい授業」については77%に上がった。1-(4)「本校では授業の開始・終了時間を守って授業が行われている」は肯定的評価が82%と10ポイント以上伸びた。
- 保護者の肯定的評価が大きく伸びてきている。努力の成果が表れている。教員の自己評価は毎年高評価である。

【生活指導】

- ・どの項目も肯定的評価が伸びて高いが、2-(1)「ルールを守る……指導」の項目は肯定的評価が89%と依然として高い。
- ルールについての指導や問題となる行動が少ないことについての評価が高い。問題行動をなくすことと合わせ、さらに保護者が相談しやすい環境をさらに整えていくことを期待する。

【学校行事】

- ・どの項目も肯定的評価が伸びて高く、3-(1)「子どもたちが活躍する場面がたくさんあり、内容が充実している」3-(2)「子どもたちは学校行事を楽しみにしている」は90%以上となった。
- 連続して評価がとても高く、素晴らしいことである。今後も引き続き維持してほしい。

【健康・体力】

- ・11-(4)「本校では、健康の増進や体力の向上に取り組んでいる」では肯定的評価は55%と引き続き低調な数値である。
 - 体力向上を図る具体的な取り組みを期待する。例えば、小学校から運動に取り組める事柄の工夫を、学び舎を活かして工夫できないだろうか。基礎力をつけるために、3校合同のコーチをつけるなど。

【キャリア教育・進路指導】

- ・進路指導についてはすべての項目で、昨年度よりやや数値を伸ばした。
 - 進路指導・キャリア教育について学校側はより詳細に説明し、理解してもらう努力をしてきており、その成果が見られる。本年度の進路だよりについては好評であったようである。

【部活動】

- ・「回数や時間は適切である(65%)」は6ポイント下がり、2年連続で下がり続けている。「入りたい部活がある(68%)」も6ポイント下がった。「学校全体で部活動を活発にしようと努力している(74%)」と4ポイント伸びた。
 - 生徒のアンケート結果は高く、努力している様子がうかがえるが、部活の活動時間・回数については、長い、疑問といった意見が多くあった。

<IV 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【学校経営・学校運営】

- ・6-(1)「学校の重点目標が明確(79%)」、(3)「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる(86%)」のいずれも評価が伸びた。6-(2)「校長のリーダーシップ」については、78%(9ポイント増)が肯定的評価であった。

【教職員】

- ・7-(1)、(2)共に『肯定的評価』は引き続き80%を超えており、教員の対応については概ね理解されている。特に「マナーを身に付けている」は85%と5ポイント伸びた。
 - 学校運営、教職員について、評価が高いことから、今後もさらに継続した経営・対応を期待する。

【保健管理】【安全管理】

- ・安全についての指導や避難訓練については、安全性を高めていると肯定的評価をしているのは83%と8ポイント伸びた。10-(2)「安全確保のための情報提供」は77%で20ポイント増。10-(3)「災害時の対応を保護者に周知している」は77%で33%も上がった。10-(4)「施設の安全は確保されている」では肯定的評価は51%で、前年度より10ポイント増だがまだ低い。10-(5)「環境や給食等への衛生面の配慮」は肯定的評価が73%と、15ポイント上がった。
 - 本年度は震度5弱以上の地震を想定して、生徒の留め置き引き取り及び集団下校の訓練を行った。また引き取りを希望する生徒の名簿も作成した。さらに緊急メールの活用を図った。こうしたことが肯定的評価の大幅な伸びにつながったと考えられる。施設の安全面の改善のためには、教育委員会への働きかけが引き続き必要である。また、何の安全性を求めているのかを尋ねることも引き続き必要であろう。

<V 教育環境の整備>

【施設設備】

- 自己評価によると、整備状況は肯定的評価が92%、点検・管理は100%が肯定的評価である。

<VI 学校生活全般>

- ・学校生活全般については昨年度と同様に比較的肯定的評価は高い。
 - 「子どもは学校生活が楽しいと感じている」の肯定的評価が89%(2ポイント減)。「活気がある」(84%で2ポイント減)。最も重要な項目が依然と高く、非常に良い。楽しんで学校に來られていることが最も大切なことである。

<学校独自項目>

- ・12-(1)「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子どもを育てている」では86%（3ポイント減）が肯定的評価をしており依然と高い。
 - 具体的な取り組み内容を伝えていった結果と考えられる。
- ・12-(4)「進路便りでは進路について必要な情報がよくわかる」の肯定的評価は83%と15ポイントも伸びた。
 - 本年度の進路だよりについては好評ようである。必要な情報について教員と保護者との共通理解ができていると思われる。

(2) 地域の方の評価

- ・全20項目中『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	1項目
5割を超えているもの	3項目
6割を超えているもの	2項目
7割を超えているもの	3項目
8割を超えているもの	7項目
9割以上のもの	3項目
10割のもの	2項目

※参考 昨年度（H23年評価）20項目

5割を超えなかったもの	1項目
5割を超えているもの	2項目
6割を超えているもの	4項目
7割を超えているもの	4項目
8割を超えているもの	7項目
9割を超えているもの	2項目

- ・昨年度に比べて『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』が増加した項目は14項目であった。
減少した項目は3項目であった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』が増加した項目は6項目であった。
減少した項目は4項目であった。
- ・他の項目は、ほぼ横ばい。（増減が2ポイント以下のもの）

<Ⅰ. 重点項目への取組>

「地域の期待に応え、地域とともに子どもを育てる」

- ・学校独自項目「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子どもを育てている」では肯定的評価が96%、否定的評価は4%だった。
 - 昨年度より肯定的評価が10%増だった。学校の取り組み状況がよく伝わっていると考えられる。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【広報活動・情報提供】

- ・4-(1)「学校からのお知らせや学校便りなどにより、学校の様子がよくわかる」（96%、3ポイント増）、4-(2)「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる。」（80%、横ばい）、4-(3)「学校は地域に向けて学校の良い点などの情報提供をしている」（80%、6ポイント減）。『肯定的評価』が高い。4-(4)「学校のホームページは充実している」については、わからない評価が28%と減り、『肯定的評価』が60%と10ポイント伸びた。4-(5)「学び舎」の活動については、『肯定的評価』が48ポイントと低かった。
 - 努力の結果が実っている。情報提供については特に不満があるというわけではないようである。「学び舎」の情報については、今後も工夫・改善の努力を望む。

【地域との連携】

- ・5-(1)「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、『肯定的評価』は昨年より6ポイント上がった（64%）。
- ・5-(2)「学校は、地域の活動や行事によく協力している」では100%と昨年度より評価を11ポイント上げた。
- ・5-(3)「学校協議会や合同学校協議会が十分機能している」の項目では、『肯定的評価』は52%と16ポイント上げた（昨年度36%）。「学校運営委員会」「学校関係者評価委員会」など、学校に関わる委員会の種類や機能が十分説明できていない面もある。八幡中学校の「学校協議会」としての独自の活動内容をさらに

知らせていくとよい。

- 学校協議会の機能や活動内容などの説明がまだ不足している。広報を充実させていくよう努力を続けてほしい。ただ、この質問では、学校協議会の中味が伝わらないと考えられる。

＜Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育＞

【生活指導】

- ・1-(2)「本校では、子どもたちに問題となる行動が少ない」は前年度より13ポイント『肯定的評価』が上がった(88%)。
- ・1-(1)「本校の生徒は社会のルールを守っている」は4ポイント増(92%)。1-(3)「本校の教員は、子どもたちのよき手本になっている」は、昨年度より『肯定的評価』は19ポイント下がった(56%)。
 - 「子どもたちのよき手本」については「わからない」が15ポイント上がった。否定的評価も見られるので、何が原因か探る必要がある。

【学校行事】

- ・2-(1)「学校行事の内容は充実している」2-(3)「学校行事のときに地域はとても協力的である」の項目では、『肯定的評価』が少し上がった。(それぞれ96%(3ポイント増)、88%(17ポイント増))
- ・2-(2)「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」は横ばい。
 - 行事については概して高水準である。努力の様子がよく伺える。今後も続けてほしい。

＜Ⅳ 信頼と誇りのもてる学校づくり＞

【学校運営】

- ・3-(1)「学校の重点目標が明確である」(100%)、3-(2)「校長はリーダーシップを発揮している」(88%)、3-(3)「地域の意見に対して、学校は丁寧に説明・対応している」(76%)とどれも大幅に伸びた。3-(4)「本校の教職員は、社会人としてのマナーを身に付けている」の項目は、昨年度から6ポイント『肯定的評価』を上げた(72%)。
 - 学校に対する理解が概ねできているように考えられる。

【安全管理】

- ・6-(1)「本校は、安心・安全な学校づくりを進めている」は84%、6-(2)「本校は安全性を高めようと、積極的に地域と協力している」は72%、6-(3)「本校では学校施設の安全性は確保されている」は56%の『肯定的評価』であり、ほぼ横ばいであった。6-(3)「本校では学校施設の安全性は確保されている」は、「わからない」が32%であった。
 - 安全管理については、何を安全じゃないと考えているのかさらに探る必要がある。

＜Ⅴ 教育環境の整備＞

(保護者の欄と同様)

＜Ⅵ 学校生活全般＞

＜学校独自項目＞

- ・学校独自項目の7-(1)「地域運営学校である八幡中学校は、地域と協力して子ども育てている」は96%と肯定的評価が依然と高い。活動や努力の様子がよく伝わっていると思われる。
- ・7-(2)「世田谷9年教育パイロット校の指定を受け、小学校との連携を深め、地域の教育力と特色を生かした教育活動を展開している」でも96%と肯定的評価が非常に高い。
 - 地域との連携活動がよく理解されているとともに、よくがんばっているという評価である。

(3) 生徒の評価

・全22項目中『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	0項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	5項目
7割を超えているもの	3項目
8割を超えているもの	12項目
9割を超えているもの	1項目

※参考 昨年度（H23年評価）22項目

5割を超えなかったもの	0項目
5割を超えているもの	4項目
6割を超えているもの	2項目
7割を超えているもの	4項目
8割を超えているもの	10項目
9割を超えているもの	2項目

- ・昨年度に比べて『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』が増加した項目は10項目であった。
減少した項目2項目であった。
- ・昨年度に比べて『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』が増加した項目は1項目であった。
減少した項目は7項目であった。

<Ⅰ. 重点項目への取組>

- 1 「質の高い学級、まとまりのある学年をつくり、一人一人の可能性を広げる」
 - ・7-(3)「毎日の学校生活が楽しい」の項目で肯定的評価が86%であった。まだ数値目標の100%には届いていないが、高水準を保っている。

<Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育>

【保護者・地域連携】【学校協議会】【広報活動・情報提供】

<Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育>

【教育課程】

- ・学習指導 1-(4)「先生は、開始・終了時間を守って授業をしている」は『肯定的評価』が69%、否定的評価は26%と横ばいである。
 - 保護者の数値は高いが、もう少し努力が必要である。
- ・1-(1)「授業の内容はよく理解できる」(85%、横ばい) 1-(2)「わかりやすい指導」(86%、横ばい)は高い数値であるが、自由記述では一部の指導に不満が出ている。(3)「通知表の評価は納得できる」では、『肯定的評価』は昨年度より7ポイント伸びた(79%)。『否定的評価』も20%と、2ポイント下げたがほぼ横ばいである。
 - 授業については、個別に指導が必要な教科が見られる。評価については授業や保護者会などでの説明がよく理解されてきていると思われる。
- ・生活指導 すべての項目で『肯定的評価』が80%を超え、教員の指導についておおむね納得していると思われる
- ・学校行事 すべての項目で『肯定的評価』が高く、80%を超えている。保護者の数値とも比例しており、大変すばらしいことである。特に楽しみにしている学校行事がある」は昨年度と同様に90%であった。
- ・キャリア教育・進路指導 ほぼ横ばいである。しかし、4-(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会がある」(3)「進路に関する情報を十分提供してくれる」についての否定的評価は26~30%と、まだ十分でないと考えている生徒が多い。生徒のほしいと思う情報とのくい違いは何かを探る必要がある。学年による興味・関心の度合いの違いも考えられる。
 - キャリアについては、折に触れて、意識付けが大切である。普段は進路のことを中学生は考えていないのが当たり前である。将来について考えるチャンスを与えるとよい。また、もっと先生と話がしたい、もっと聞いてほしいと考えている生徒が多くいることが推測されるので、リサーチをするといよい。

【部活動】

- ・5-(1)「部活動は充実している」(2)「部活動の回数や時間はちょうどよい」(3)「入りたい部活動がある」の項目で『肯定的評価』の回答は、ほぼ昨年度並である。回数・時間についてはやや数値が低い。

<Ⅳ 信頼と誇りのもてる学校づくり>

【教職員】

- ・6-(1)先生はいつも熱心に指導してくれる」(2)「先生は誰に対しても公平である」(3)「よく私の話を聞いてくれる」についての『肯定的評価』は前年度とほぼ横ばいである。教員の取り組みの成果は出ていると思うが、「公平」感については、否定的評価がまだ高い(34%)。
 - 先生は熱心であり、指導に納得できるが、公平ではないという気持ちの裏返しは、自分のことを分かってほしい、気持ちを聞いてもらいたいということであると思う。「よく話を聞いてくれる」は11ポイント伸びている。個々の生徒の感じ方にもよるが、何を不公平と思っているのかについては、やや気になる数値である。

<Ⅴ 教育環境の整備>

(保護者の欄と同様)

<Ⅵ 学校生活全般>

- ・7-(1)毎日の学校生活が楽しい」(2)「八幡中学校が好きである」の2項目とも86%程と『肯定的評価』がとても高い。とても素晴らしいことであり、最も大切なことである。

<学校独自項目>

- ・読書に関する調査では、肯定的評価は横ばい(71%)。進路については、肯定的評価が73%と16ポイント伸びた。本年度の進路だよりは好評だったようである。「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある」については、81%とほぼ高調であった。
 - 進路情報については、生徒は何を求めているのか、情報発信の仕方・量に原因があるのか、さらに訊ねてみるとよい。「学級・学年のまとまり」については、1年生の数値がやや低かった。学芸発表会直後のアンケートであったが、原因はよくわからない。

3. 昨年度の評価で改善・努力をした点

【学習指導について、継続して基礎・基本の確実な習得を図るとともに、学習習得状況を調査・分析し、授業改善に生かした。】

全校で授業方法や教材の工夫・改善を継続的にすすめ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る授業、分かったと実感できる授業を実践してきた。

学習習得状況確認のための調査は、「世田谷9年教育」パイロット校として、全学年で実施してきている。3年生は、昨年度より9月と11月にも秋調査を実施した。さらに、自ら進んで学力向上に励む生徒を育てるため、数学検定や英語検定対策としての土曜講習や、3年生の進路対策としての数学・英語の朝学習や土曜講習会を昨年度より2学期以降実施してきている。

また、小学校との連携のもと、学習確認会議を3回行った。学習確認会議では、前年度までの学習習得状況調査の結果と本年度の結果を比較・分析し、各学年の傾向と課題を検討し、具体的な改善のための具体策を提示し、実践を図った。小学校と連携して、授業の具体的な工夫・改善、連携した取り組みを各教科で進めた。生徒一人一人については、調査結果をもとに、夏期休業中や2学期の面談を通して個別に学習のアドバイスをを行った。学習指導について、生徒の肯定的評価が4年間連続して向上している。

【進路指導について、進路だよりを工夫するとともに、適切な情報を適切な時期に提供できるよう努めた。】

1・2年生には「進路だよりJr」、3年生には「進路だより」、全学年保護者には進路説明会への参加を通じて進路にかかわる情報提供を進めるとともに、相談にのった。生徒については独自項目を含め、肯定的な評

価が大きく伸びた。「たより」の内容についての工夫を行ったためと考えられる。

【部活動について、より一層の活性化に努めた。】

部活指導員の配置により、部活動の現状維持を図っている。生徒の肯定的評価は高いが、さらに期待に応えることができるように努力の継続を望む。また、活動の回数・時間については保護者の評価が下がった。自由記述でも、回数が多し、時間が長いといった意見がいくつか見られる。検討が要する。

【先生について、教員の対応について、きめ細かく丁寧なコミュニケーションづくりに努めた。】

生徒一人一人に丁寧に、きめ細かく指導したり、丁寧に相談にのることを継続して努力した。「熱心な指導」について、生徒・保護者ともに肯定的評価が引き続き高い。「よく話を聞いてくれる」では生徒の評価が大きく伸びた。公平感についてはやや低調な評価であった。一部のことを指しているのか、原因を探る必要がある。

【地域との連携について、学校全体で参加意欲の向上を図った。】

数値目標にボランティアに参加する生徒の割合を70%以上にするを掲げ、生徒会を中心にボランティアカードを作成し、参加の意欲を高める活動をしている。例年多数の生徒がボランティア活動に参加している。教員もいずれかの地域行事には必ず参加し、連携を図った。その活動の様子は伝わっている。しかしながら、学校協議会や合同学校協議会の活動内容については理解を広げるために、情報提供を行ったが、まだPRが少し足りない。特に「学び舎」の活動についての宣伝について、さらに努力や工夫が必要である。

【小・中の接続プログラムの取り組みを実践し、小・中の連携を深め、中学校の広報に努めた。】

生徒会役員が2小学校の朝礼に2度ずつ参加し、運動会や学芸発表会のPRを行った。また校長が小学校4年生以上の保護者会に参加し、出前の学校説明会を行った。さらには、全部活動による、小学校5年生全員対象の部活動体験を行った。小学校の児童・保護者に大変好評であった。理科、英語、保健体育の出前授業も実施した。「世田谷9年教育」パイロット校としての活動が、保護者・地域によく理解され、肯定的評価が高い。生徒の肯定的評価も上がったが、まだ数値としてはまだ少し低調である。生徒に対するPRも必要である。

【生活指導について、保護者・地域と連携・協力しながら実践した。】

「問題となる行動が少ない」の項目について、保護者・地域ともに肯定的評価が上がった。生徒が落ちついて学校生活を送れていると感じられていると考えられる。安全面を含め、協力関係づくりは今後も進めていってほしい。

4. 課題と思われる点について

・学習指導について

生徒・保護者ともに肯定的評価はさらに上がった。大変よい傾向である。保護者では、「学力がついている」の項目で肯定的評価が例年になく75%まで上がった。「通知表の評価」については否定的評価がまだ26%ある。保護者では特に第2学年で評価が少し低い。より納得のいく説明を心がけていくと良い。

・進路指導（キャリア教育）について

評価はやや横ばいであるが、生徒の「先生と相談する機会」については、否定的評価が30%ある。生徒は、もっと相談にのってほしいと感じていると例年うかがえる。話を聞く機会をもう少しつくっていく工夫が必要である。情報提供については、進路だよりの工夫等で改善の傾向が見られる。

・学校の安全性について

保護者・地域の「施設の安全性」については、例年肯定的評価の数値が低い。老朽化している校舎や耐震性についての不安については、教育委員会への働きかけを継続してほしい。「災害時の対応の周知」は肯定的評価が77%と大幅に上がった。「情報提供」についても77%と大幅に伸びた。大震災時の対応や緊急メールの活用など、保護者への十分な情報を発信するための工夫が認められている。

・生徒に対して

全体的に肯定的な評価が高いが、否定的な評価の数値が比較的多い項目が気になる。

「先生は、授業の開始・終了時間を守っている」では、26%が否定的である。「きまりを守らないときなど、先生は注意をしている」では、11%が否定的である。「先生に指導されたことは、納得できる」でも10%が否定的である。「先生は、誰に対しても、公平である」では34%が否定的である。これらの項目は、否定的な数値が0になるように努力すべき事柄であると考えられる。原因を探り、改善していく必要

がある。

「小学校との交流」「進路情報関連」の項目について、伸びているが、まだ少し評価が低調気味である。実際には、学校はどれもよく努力しているので、内容について、もっと生徒にPRすると良いだろう。

5. 学校関係者評価委員会としての提言

- *傾向を探るため、ここ3～4年の傾向との比較検討をしてみた。一昨年度、昨年度と『肯定的評価』の数値が年々上がってきている。本年度もまた、やや横ばいか、さらに上げているという項目が見られるという結果である。特に最も重要と考える「学校が楽しい」「学校が好きである」の肯定的な評価が非常に高いことは、とても素晴らしいことである。「うちの学校はよい」と自信と誇りをもって、小学校へもアピールを続けていってほしい。ホームページでも、良い所をさらにどんどんPRしていくことを望む。全体的にとってもよく頑張っている。アンケートが活かされるように努力している結果であると思われる。
- *生徒が教員と話したい、自分のことを理解してほしいと思っていることが依然として表れていることから、教員が話すための時間や機会を意識的に作り出す工夫がさらに必要と思われる。
- *肯定的評価の数値が上がってはいるが、まだもの足りない数値の事柄があったり、比較的否定的評価が高い、あるいは「わからない」という評価が高い事柄を見てみると、生徒や保護者とのコミュニケーションをとる物理的な量（時間、場所）を多くすることで、解決されるのではないかとと思われる点は、例年と同様である。
- *検討を要する点は、校内で十分に検討し、具体的な工夫・改善が図れるよう要望する。また、施設の改修など校内でできないことは、区教育委員会へ改善を求めてほしい。アンケートの意義として、区教育委員会としては、どのように活かすのか、どう改善したのかがわかると良い。
- *「小学校との連携」の保護者・地域の肯定的な評価が非常に高いことは、とても良い。公立学校の良い所をさらにPRを続けていってほしい。
- *「八幡中学校独自設問」では、「地域運営学校としての地域との協力」や「世田谷9年教育パイロット校としての取り組み」について、『肯定的評価』が昨年度から継続してとても高い。地域運営学校として理解・評価されてきている。さらに理解を深め、協力いただけるように現在の学校の取組を継続、発展させていく活動を期待する。また、学校協議会・合同学校協議会の取り組みの内容については、よくわかるように広報しているが、さらに浸透していくことを期待する。「学び舎」の取り組み内容の宣伝はさらに工夫してほしい。
- *学習活動、行事や部活動に対しての取組を充実させることが、学校生活全般を高めることに繋がる。肯定的評価が、保護者・生徒ともに連動して上がっている項目については、素晴らしい結果である。特に、生徒においては「A とても思う」の数値が高いことが素晴らしい。良い関係が築かれていることが想像できる。学習が基本であるが、八幡中学校の良さをさらに高め、「卒業しても仲の良い」学校を維持・継続していくことを期待している。
- *アンケートを続けてきた結果、少しずつ改善に活かされていると思われる。全体的に「肯定的評価」が高く、提言をしにくいほどである。今後も継続して、教育活動に励んでいってほしい。